

歩ook田原

街あるっく田原

第7号

- 2・7ノスタルジア
- 特集! 田原二七の市!
- 伊藤礼さん~ピリカラプ~

2・7ノスタルジア

27の市に参加するようになって3年くらいたつでしょう。トマトとミニトマトをメインに季節によつてはキュウリやナス、えんどうも売っています。

27の市は自分にとつて亡くなった曾祖母との思い出がたくさん残っている場所です。おそらく数える程度なんでしょうが、夏休みや冬休みには早起きをして付いて行ったり、車が運転できなかった曾祖母を母親と一緒に迎えに行ったり、その際に周りのおばあちゃんたちがお菓子をくれたりミカンをくれたり、販売用の花の苗の鉢上げを手伝ったり、やさしい思い出がいくつもあります。そんな思い出があったおかげで、初めて作

ったミニトマトの販売に困っていた時に、ふと参加してみようという気持ちになり、今に至りました。

販売当初のアイテムはミニトマトだけでお客さんには「普通のトマトは無いの?」とか「ミニトマトはいらない」とかなかなか辛口なコメントいただきました。おばあちゃんの中に中途半端に若い人間はやはり異質であり、いかがわしく映ったのかもしれないです。そんな中で段タリピートしてもらえようになつてきた中でお客さんから名前を聞かれた時に「あれ? 昔トマト売ってたおばあちゃん居たよね?」というので「それ家のひいばあちゃんだよ」と答え



ると「あんたおばあちゃんとか来てた小ちゃかった子かん?」という返事が返ってきました。曾祖母も亡くなって13年が経ちます。晩年は市にも参加してなかったと思うので、かれこれ15年以上は行ってないと思うのです



が、覚えてくれてたんですね。とても嬉しかったです。それからでしょうか。曾祖母のおかげでその頃からのお客さんが付いてくれるようになりました。今でも市が大好きだった曾祖母が使っていた秤はかりを守りみたいな気持ちで使っています。

27の市も年月を経て、川沿いの松下駐車場からセントファールに移り、みんなの思いつきに残っている27の市とはイメージと変わってしまいい、残念がついているお客さんもいます。お客さんの中にも普段の量販店での買い物とは違い、相對での販売になれてなくて不安や買いづらさを訴える方もいます。より合理性をもとめられる現代において朝市というシステムはとても非合理的で時代遅れなんでは

ようが、とある友人がこんな事を言っていました。「田原の市って奇跡だよな。」だそうです。彼自身いろいろな所で朝市をスタートさせたいからと協力を求められるのだそうですが、明らかに採算割れを起こすし、集客もいつになつたら安定するのかがわからないという状況の中ではないかな実現しにくいということでした。「まさに文化だよな。」という事だそうです。いつかはなくなってしまう文化なのかもしれないのですが、非合理的な価値を大切に思う気持ちは消えないでほしいと願っています。



T.L

AM9:00

二七の市終了。

＊雨天時はセントファールセンターコート。

AM6:00

中央広場では、太極拳・エアロビクスのレッスンが始まります。



仏様にお供える仏花も売っているから、そのままお参りに行くお客さんもいるよ。



AM5:30

出店者さんとお客さんが最も多い時間帯。



5時半～6時半の間にたくさんの人が集まります。「ネギはこの人、大根はあの人から」と品物によって買うところを決めている方もいます。

朝4時はまだ真っ暗。空が明るくなるにつれ、出店者さんも増えてきます。収穫したばかりの新鮮な野菜がたくさん！ほとんどの出店者さんが地元田原市在住です。



AM5:00 AM4:00

まだ暗い中、セントファール駐車場がOPEN。早い出店者さんが開店し始めます。美味しそうな野菜や果物を持った出店者さんが次々と登場！



伝統の朝市 田原二七の市

にしちのいち



来年の1、2月に咲く小菊の苗。毎回4時から出店しています。(大場さん)



いつも笑顔の鈴木さん。野菜全般を販売しています。この時期は桃が美味しいよ！



このゴボウがオススメ！太くて柔らかくて新鮮！香りも良くておいしいよ♪ (鈴木さん)



毎回、ゆりの花を専門に販売しています。(富田さん)



ももちゃんがお留守番。新鮮な野菜がたくさん。(中神さん)



季節ごとに採れる美味しい農作物や花を販売しています。農業はリタイアしたけど、野菜を作るのが好きだから来てるよ、という出店者さんがたくさんみえます(*^_^*)

遊びに おいでん！

BLUEBELL CAFFÉ
ヨービー&サンドウィッチ

ホットサンド
ドリンクにプラス250円

朝のサンドウィッチ
(全8種類)
ドリンクにプラス250円

アイスモカ 370円

ヨービー&レギュラーモーニング 400円

二七の市がある日は、ブルーベルカフェも午前6:00にOPENします！！来てね！



ブルーベルカフェのマスター



甘くておいしい梨はいかが？！10月からは柿を販売します！(鎌田さん)



大好きなバームクーヘン♡少し型崩れしてるけどおいしいよ！(れなちゃん、ひさなちゃん)



新鮮な卵を持ってきました。卵を新聞で包む手さばきは必見。(富田さん)



ちりめんさきいかドライフルーツなど販売してます！味見してってね！(坂神さん)



出店者さんやお客さんがスムーズに駐車できるように誘導してくれます^^



TLさんのトマト。早く来ないと売り切れちゃいます！



人気のみたらし団子を売っている田原の老舗菓子店「日米堂」(にちべいどう)。もちもちとして懐かしい味。

まちなかイベント情報

- 9月4日 トライアスロン伊良湖大会、菓子投げ@蔵王山展望台
- 17日 田原祭り
- 18日 田原祭り、五町合同花火大会
- 10月2日 お菓子投げ@蔵王山展望台
- 8日 まちなか市民音楽祭
- 9日 蔵王山展望まつり
- 16日 渥美半島ぐる輪サイクリング
- 22日 田原二七の市2周年記念祭@セントファール
- 23日 田原市民まつり

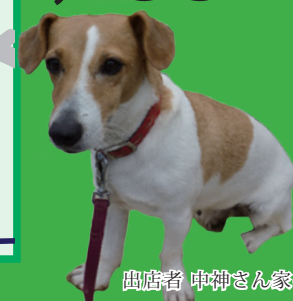


緑茶・麦茶・ウーロン茶など、様々な種類のお茶がおいで！



季節や天候によって出店数は異なります。駐車場はセントファール地下駐車場をご利用ください。

田原二七の市は2と7がつく日の朝4時から朝9時までセントファールの駐車場で開催してるワーン！



出店者 中神さん家の看板娘 ももちゃん。



「その人らしさ」 を大切にしたい

File
No.3

ピリカ ラブ HAIR and MAKE

いとう れい
伊藤 礼さん

プロフィール

1975年、萱町生まれ。高校まで萱町で育つ。
愛知美容専門学校を卒業し名古屋市内で15年間勤務。
昨年(2010年)9月に「ピリカラ」をオープン。



店内にあるシマフクロウの木彫り

昨年9月にオープンした美容室「ピリカラ」。聞きなれないこの言葉は、アイヌ語で「美しい羽^{はね}」という意味。経営しているのは、萱町生まれ萱町育ちの伊藤礼さん。ご両親は同じく萱町で理容業を営んでいる。

両親を見て育った礼さんは「自分も同じ道に進むんだ」と漠然^{ぼくぜん}と思っていたそう。美容師として働くお姉さんの姿を見て、理容だけでなく美容にも興味を持ち、高校卒業後は名古屋の美容専門学校に入學した。卒業後、名古屋市内の店舗に15年勤務し、美容師として活躍。その間、サロンワークだけでなく、様々な業界紙に作品を応募し、自身のレベルアップを目指した。その柔軟なスタイルは評価され、多数の雑誌に掲載されている。

礼さんは長男だったため、いつかは地元に戻って開業したいと考えていたのだが、なかなか踏み切れずにいた。そんな中、開業の決心をしたのは、仕事上でのパートナーでもある奥様の一言だった。「やりたいことはどこにいてもできるんじゃない?」。こうして美容室「ピリカラ」はオープンした。店舗名を考えていたところ、北海道に住む奥様の伯父さんからアイヌ民族の話を聞き、アイヌ民族の自然に対する考え方に共感。店舗名、店内のインテリアにアイヌの雰囲気演出する事にした。

まだ開業して1年だが、固定客もついてきた。ライフスタイルはもちろん、お客様の髪質、癖、悩みを聞きながらデザインすることを心がけている。「今後は、田原だけでなく、豊橋、名古屋からもお客様に来ていただけるような魅力あるサロンにしていきたい。そして、せっかく田原に戻ってきたのだから、この地域の活性化に貢献し、地元の方々と繋が^{つな}がっていききたい。」と、話してくれた。

街と人との繋がりを大切にする美容室「ピリカラ」。これからお客様が増えるうだ。

ピリカラ

HAIR and MAKE

田原市田原町萱町 64

☎ 0531-24-1755

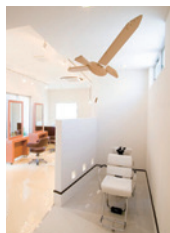
🕒 9:00-21:00 最終受付 19:00

* 予約優先制

毎月曜日・第3火曜

回店舗前に1台

いとう理容 駐車場も利用可。



(上) 雑誌に掲載された礼さんの作品。これからもしどろんどろん雑誌に応募し、田原からスタイルを発信したい。

(左) ピリカラの店内は、アイヌの雰囲気と、「緑の見えるナチュラルな空間」をコンセプトに子供部屋のようなワクワク感のある空間をイメージしている。